

世田谷区立松沢小学校
校長 宇都宮 聰 様

世田谷区立松沢小学校
学校関係者評価委員会
委員長 中村 英代

令和4年度世田谷区立松沢小学校 学校関係者評価委員会報告書

令和4年度学校関係者評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

学校におかれましては、この報告書を今後の学校運営にご活用いただき、より一層児童の健やかな成長が図られますようお願い申し上げます。

I 調査実施時期・対象(回収数・率)

- (1) 実施時期：令和4年12月5日から12月15日まで
- (2) 実施対象：児童（5・6年生） 保護者（全児童数） 地域（学校協議会委員他）
- (3) 回収数（回収率）：児童249人（87%） 保護者617人（71%）
地域40人（50%）

II アンケート調査結果（別紙）

III 考察

（1）児童対象（5年、6年対象）

評価の高いまたは増減が顕著な設問項目

設問	評価委員のコメント
<ul style="list-style-type: none"> ・先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。 ・授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。 	授業では課題に対して、児童同士で考え方話し合う等の機会があり、教師から生徒への一方通行ではない活発な雰囲気がうかがえる。（肯定的評価が高い「先生は(91.5%)」「授業で(94.3%)」※設問最高値）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は楽しい。 ・学校生活は楽しい。 ・学校が好き。 	「学校行事は楽しい(85.5%)」「学校生活は楽しい(81.5%)」「学校が好き(71.5%)」学校生活に関する項目は、肯定的評価が7割を超えるものが多く、日々の生活の充実ぶりが見て取れる。
<ul style="list-style-type: none"> ・区立中学に関する情報が提供されている。 ・学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。 	「情報が提供(42.6%)」「学び舎(29.7%)」とともに、近隣の公立中学校に関する項目の評価が高まらない。該当中学校のより一層の魅力の発信が急務ではないか。

※カッコ内は肯定的評価の数値

1 学習について

「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている（91.5%）」「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している（82.3%）」

「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある（94.3%）」

「先生は映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている（84.7%）」

どの項目も高い評価が継続している。授業中、児童がタブレットを活用しながら、積極的にコミュニケーションをとっていることが分かる。先生方の研究の成果もあり、児童の授業の理解が一層すすんでいるようである。

2 生活指導について

「私は、学校のきまりを守って、行動している（82.3%）」

「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している（87.5%）」

「先生に注意されたことは、理解できる（89.1%）」

昨年よりさらに、評価が上がった。児童は高い意識で、規律を守る気持ちを持っている。

3 学校行事について

「学校行事は楽しい（85.5%）」

「学校行事は達成感がある（77.9%）」

「先生は、児童の意欲を大切にしている（79.5%）」

学校行事は、児童にとっては特別な経験である。コロナがなかなか収束しない中、先生、職員方をはじめ内外の関係者のご尽力で、様々な行事が催行されたことに感謝します。

4 キャリア教育について

「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある（65.9%）」

「目標を持ち、その実現に向けて努力している（80.0%）」

「区立中学に関する情報が提供されている（42.6%）」

キャリア教育の項目は3年目となる。自身の未来については、まだ漠然としている児童も多い。

ただし、早速「キャリア・パスポート」で近い将来の目標設定と振り返りを生かしているようである。

しかしながら、区立中学の情報は依然として認識が低い。中学校主導の交流や往来、学校紹介の機会を増やすことが必要ではないか。

5 先生について

「先生たちは、ていねいに指導してくれる（87.5%）」

「先生たちに相談できる（69.9%）」

「ていねいに指導」は昨年比微増(+1.8)、「相談できる」は微減(-1.6)となり、ほぼ横ばいの評価であった。ただし、「相談できる」に関しては、過去50%台半ばが継続課題であったが、昨年に大きく改善され、それを維持している。引き続きの対応をお願いしたい。

6 全般について

「学校生活は楽しい(81.5%)」

「学校が好き(71.5%)」

「私は、家庭で宿題やe-ラーニングでの学習をしている(60.6%)」

「私は、塾で学習している(72.2%)」

「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある(29.7%)」

多くの児童は学校生活を楽しく過ごしている様子で好ましい。楽しい反面、高学年は、授業が高度であったり、放課後や家庭内のスケジュールが過密になったりする。学校と家庭のスケジュールがバランスよくなるよう、保護者にも留意願いたい。

中学校について「4 キャリア教育について」でも触れたが、児童の認識は毎回低い。これまでと同じ交流を続ける限りは同じ結果になると予想する。

7 自分のことについて（松沢小学校独自項目）

「『松沢小学校スタンダード』が身に付くように努力している(65.4%)」

「気持ちのよいあいさつをするようにしている(82.7%)」

「安全に気を付けて生活をしている(86.8%)」

「運動に意欲的に取り組んでいる(73.9%)」

「相手の気持ちを考えて行動している(86.8%)」

肯定的評価が昨年よりも増えた。自分自身を大切に、他人を大切にしている。

コロナ禍でコミュニケーション不足、マスクによる表情不足といわれるが、松沢小学校の児童は解決策を知っている。

（評価委員：吉見明樹・川村由美）

（2）保護者対象

【評価の高いまたは増減が顕著な設問項目】

設問	評価委員のコメント
・学校行事は子供にとって楽しい ・学校行事は、子供にとって達成感がある	「楽しい(95.2%)」「達成感(93.3%)」ともに9割超えの高評価が継続。学校生活に関する項目は肯定的評価が多いが、行事に関しては特に保護者としても満足度が高い。引き続き工夫した行事運営をお願いしたい。
・私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している ・私は、今年度の学校重点目標を理解している	否定的な回答が多い「すすんで協力(43.9%)」「学校重点目標(36.6%)」は学校側への要望というより、保護者のもっと協力したい、理解したいが現実及んでいないとの気持ちがこの回答に表れているのではないかと推測できるが、学校側としても重点目標を更にアピールしていただけるといいのではないか。
・「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている ・本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている	学び舎について「情報提供(否定的37.4%)」「交流活動(わからない31.3%)」と否定的やわからないの回答が多かった。情報提供がないことでわからないにつながるため、特に松沢中学校の情報が高学年だけでなく、低学年に対しても提供されることを求めたい。ただ、学び舎としての情報が必ずしも必要とは言えないかもしれない。

1 学習指導について

「本校は、黒板の書き方などやプリントなどを工夫している」は「わからない」が 17.8%。学校公開や保護者会の機会は設けられていたが、学校に来られなかつたり、教室内まで入らなかつたり、学習の内容まで把握できていない保護者もいたと思われる。一方で「本校は、子供が考えたことを話し合つたり発表したりする機会がある」の肯定的回答は 83.8%。先生からの一方的な指導ではなく、子供たちが主体的に考えて授業に取り組めるよう工夫していただいていることは、今の時代求められる力でもあり、大変ありがたい。「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の肯定的回答は 72.4%と前年同様だが、タブレットは昨年以上に活用されていて、評価できる。

2 生活指導について

「本校は、学校のルールについて子供に考えさせる指導をしている」の肯定的回答は、70.8%で前年度とほぼ同様だが、「わからない」は 13.0%に減少。学校の指導方針や校長先生をはじめ、先生方の理念等が前年より保護者にも浸透してきていると思われる。

3 学校行事について

「学校行事は子供にとって楽しい」の肯定的回答は 95.2%と驚くべき高評価が継続された。“with コロナ”の時代となり、思い出に残る体育学習発表会や遠足、移動教室等が中止されることなく開催されたことが評価された。「学校行事は、子供にとって達成感がある」の肯定的回答も 93.3%の高評価。ゴールに向かって頑張る機会が仲間意識や成し遂げる成果となり、達成感に繋がっていると思われる。来年度、音楽学習発表会の開催単位の拡大への期待も高まる。

4 キャリア教育について

「本校の教員は、子供に目標をもたせ、その実現のために支援している」への肯定的な回答が 70.1%、「本校では、子供の生き方や将来のことについて考える授業をしている」は 55.1%と半数で、わからないが 24.5%と目立った。職業体験談の募集は保護者からもしていて、将来のことを考える機会は作っていただいている印象だが、1年生から 6年生まで全学年で実施を検討してもいいのではないか。

5 教職員について

「本校は、丁寧に指導している」は肯定的回答が 81.2%と前年同様高評価。1人1人の個性の尊重に加え、学校に行けない子にもオンライン授業の機会が与えられることにも感謝したい。

6 全般について

「本校の学校生活は、子供にとって楽しい」は肯定的回答が 84.1%と前年から少し減少。毎日の学校生活が楽しくなるよう、勉強だけでなく、子供同士の交流についても引き続きの工夫をお願いしたい。「子供は、家庭で自主的に学習をしている」では否定的回答が 36.5%と前年同様に多く、家庭での学習については保護者としては悩ましい。「本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」は「わからない」が 31.3%。コロナの影響で交流活動がされていないため、情報が少ないと思うが、中学生になるにあたっての不安が解消できるよう、中学生の活躍や松沢中学校のよさ等の情報をもう少し提供してもらえたとありがたい。

7 学校からの情報提供について

「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」に対する肯定的回答は、92.2%、「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」も 93.9%といずれも前年同様高評価。配布資料が HP やすぐ一のアプリでも提供されているため、学校からの情報提供が見やすくなり、助かっていると思われる。「学び舎の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている」は否定的な回答が 37.4%と多かった。前年度に続き赤堤小学校との交流減少が一因であろう。オンライン交流等も検討いただけるといいのではないか。

8 学校運営について

「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている」の肯定的回答は 79.7%、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」は 84.9%と前年同様高評価。重点目標は HP 等でも公開されていることは認識されている。先生方の協力的な指導体制には感謝したい。担任の先生だけでなく、様々な先生と関わっていけることを引き続きお願いしたい。

9 家庭と学校との連携について

「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」は否定的な回答が 43.9%と多かった。否定的な回答が多い項目として上がっているが、肯定的な意見も半数あり、否定的な回答をしている人も、まったく参加していないわけではなく、もっと協力したいが現実及んでいないことがこの回答に表れているのではないかと推測できる。「私は、今年度の学校重点目標を理解している」も否定的な回答が 36.6%と多かった。目標については連携されていると思うが、保護者が覚えていることは難しく、事あるごとに目につくようにしていただけるといいのではないか。

10 地域との連携について

「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている」の肯定的回答は 80.2%、「本校は、地域の活動などに協力的である」は 77.9%と前年同様。地域の方の協力は縮小しつつも行っていたいと理解しているが、With コロナ時代になっているため、商店街等の地域の方、学生・保護者のボランティアの活用も再び増やしていっていただきたい。

11 学校の安全性について

前年度に続き、「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子供に安全に関する指導をしている」の肯定的回答は 94.8%と非常に評価が高い。避難訓練の充実や緊急連絡メールを活用し、大切な情報が速やかに提供されていることへの安心感が高評価につながっている。

12 松沢小独自項目

「本校の子供たちはいのちを大切に考えている」の「わからない」の回答が 27.7%と多かった。いのちについては道徳や理科など、多方面で取り入れられているが、学習内容について保護者には伝わっていないことが表れた。うさぎやザリガニ等を世話する実体験でも、いのちの大切さは培われていると思うが、性教育においても、いのちの大切さに触れることを希望する。

「本校の子供たちはあいさつをよくしている」は肯定的回答が 64.2%、「本校の子供たちは、相手を思いやる言葉を使っている」は 51.2%と、ともに低かったが、児童の「気持ちのよいあいさつをするようにしている」は肯定的な回答が 82.6%、「相手の気持ちを考えて行動している」は 86.8%と一致して

いなかった。あいさつ当番等もあり、児童としてはあいさつを心がけている、相手を思いやっているが、保護者としてはもっと期待が高いことの表れと推測する。学校と家庭で協力して指導をしていきたい。

(評価委員：大島友佳子・宮元智美)

3 地域の方々対象

評価結果が顕著な設問項目

設問	評価委員のコメント
学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる。	肯定的評価95%。学校が様々な行事を工夫しながら実施していると、地域の方々が感じている事が分かる。これからも益々充実するための取り組みを継続して欲しい。
「学び舎」の活動について、情報が提供されている。	否定的評価45%。昨年度はコロナ禍で交流活動を休止、設問にはなかった。地域の方々は「学び舎」の活動について、知らない方が多い。本校は、松沢中学校、赤堤小学校、赤堤保育園と連携して「赤松学舎」の名称で交流活動をしている。今年度は、教員同士の交流はあったが、児童と生徒の交流は出来なかった。交流は将来において必要とされているので、継続して欲しい。
学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。	肯定的評価75%。コロナ禍により、日常の行動が制約される中、ホームページやSNSの情報発信の大事さが伺える。「学校日記」は、毎日のように更新され学校の様子が紹介されている。更新されている担当の職員の皆様は大変だと思うが、継続して欲しい。地域の方々には、小学校のホームページを閲覧していただき、子供たちを見守って欲しい。

本校は商店街の中心とも言える位置にあり、町会、自治会、多くの商店街関係者の方々や学校関係の委員、近隣の幼稚園、保育園、介護団体などに日頃からご協力をいただいている。皆様からの学校へのご支援に感謝申し上げます。

【共通評価項目】

1 生活指導について

地域の方々が児童を見る機会が多いのは、登下校の時間である。児童は概ね交通ルールを守っていると評価している。今後も学校からの定期的な指導と、地域の多くの目で児童の見守りを継続して欲しい。

2 学校行事について

コロナ禍で、感染対策をしつつ現状のできる範囲で行事を工夫している事が伺える。

地域の方々までの参観が現状難しい状況ではあるが、年間を通して「学校だより」、ホームページなどによる情報提供により、学校の様子が分かり充実した行事を行っている事が伺える。今後も、継続して欲しい。

3 地域との連携について

本校は下高井戸商店街の中心とも言える場所にあり、商店街との連携が密接である。2年生では街を探検する授業を行い、きはだ学級では商店街で買い物学習等、地域の特徴を生かした授業をしている事が伺える。

松沢小学校学校運営委員会が主催するどきどき土曜スクールでは、地域の方々や日本大学文理学部の学生がボランティアとして参加している。

また、北海道中川町教育委員会とも様々な交流をしている。今年度も北海道中川町産のジヤガイモは調理実習で、カボチャは学校給食で提供し児童に喜ばれた。

4 学校運営について

長引くコロナ禍での運営にもかかわらず、高い評価を得ている。これからも地域の意見を取り入れた教育活動を継続して欲しい。

5 学校の安全性について

安全への取り組みとしては、毎年9月に松沢小学校避難所運営委員会が主催する避難所訓練に、学校運営委員会が「避難所を体験しよう」と題して児童を募って避難所の体験を実施している。

コロナ感染症対策では、校内で抗原検査キットを備蓄し、安心・安全を確保している。

6 松沢小独自項目

「子供たちは、挨拶ができる」

肯定的評価が82.5%と高評価になっている。校内で挨拶運動を行なっている様子も見られ、また登下校時に子供たちが元気に挨拶する姿を見る事ができる。挨拶は子供たちだけでなく地域住民にとっても円滑なコミュニケーションであり、継続して大切にしていきたい点だと考える。商店街でも中止していたお祭りなどのイベントを少しづつ開催しつつあり、交流できる機会を増やしていくことを願っており、学校にも継続してご指導いただきながら双方でよりよい交流の場を設けていきたいと考える。

「子供たちは、楽しそうに学校に通っている」

今年も95%と大変高い評価となった。子供たちにとって学校が楽しいことは、地域にとっても、非常に好ましい。引き続き楽しい学校運営をお願いしつつ、地域の方々には、これからも温かく見守って欲しい。

(評価委員：石井健夫・新野隆憲)

IV まとめ

本年度のアンケート結果の評価を、「評価の高い設問」と「評価の低い設問」に区分して、それぞれの評価内容を総括した。特に〈表-1〉と〈表-2〉は、「児童」「保護者」「地域」のアンケート結果の項目の中で、最も顕著な結果が現れたものである。「評価の高い設問」は、松沢小学校の最も優れた特色であり、「評価の低い設問」は次年度における優先課題となるものである。

1 今年度の評価結果に関する成果と課題

〈表-1〉 【評価の高い設問】

区分	設問	評価委員のコメント
児童	・先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。 ・授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	2項目ともに肯定的評価が特に高い。先生が授業のポイントを的確に児童に示し、児童も授業に主体的に参加していることがうかがえる。(91.5%、94.3%)
	・学校行事は楽しい ・学校生活は楽しい	2項目ともに8割を超える高評価で、各種行事、日々の学校生活の充実ぶりがうかがえる。(85.5%、81.5%)
保護者	・学校行事は子供にとって楽しい ・本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	2項目ともに9割を越える高評価。各種行事やホームページなどによる情報提供が評価された。(95.2%、94%)
地域	・子供たちは、楽しそうに学校に通っている。 ・学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。	2項目ともに95%と高評価。通学し、先生や友だちに会える喜びを児童の様子から伺えることは非常に好ましい。また、学校の様子が地域に届いていることがわかる。

児童からは、主体的に授業に参加している様子や学校行事・学校生活を楽しんでいる様子が確認できた。保護者からは、学校行事やホームページなどを通じた情報提供が、前年度に続く高評価となり、学校生活全般への満足度の高さが読み取れる。また、地域からは、楽しそうに学校に通う子供たちの様子が報告されるとともに、前年度に續いて「情報提供」への信頼が読み取れる。

〈表-2〉 【評価の低い設問】

区分	設問	評価委員のコメント
児童	区立中学に関する情報が提供されている。	「区立中学に関する情報が提供されている(42.6%)」は、昨年41.8%から微増した。ただし、否定的回答が28.9%、「わからない」回答も28.5%である。
保護者	私は、今年度の学校重点目標を理解している。	今年度の学校重点目標はホームページにも掲載されているが、肯定的回答が5割程度であった。
地域	特になし	特になし

「評価の低い設問」は、前年度に引き続き児童の「区立中学に関する情報が提供されている」であった。5・6年生の「わからない」という回答は28.5%、否定的回答は28.9%（「あまり思わない」(16.5%)、「思わない」(12.4%)）である。松沢小学校の令和3年度の私立中学進学者は51%（175名中90名）であり、半数の児童は区立中学には進学していない現状があるため、世田谷区で用意されている質問項目と松沢小学校の特徴にややズレがある点を述べておきたい。松沢小学校の場合、進路を考

える小学校低学年段階で区立中学についての情報が児童や保護者に提供されるとよいのではないか。中学校の情報提供は中学校側の課題であり、松沢小学校側の課題ともいい難いが、この点について、教職員のみなさまに共有していただき、日常の学校生活の中で児童や保護者に必要な情報が引き続き提供されていくよう願いたい。なお、区立中学に進学する児童も私立中学に進学する児童も、どちらも少数派になることなく、各児童・各ご家庭の判断で進路選択ができるのは松沢小学校独自の強みともいえ、この点は肯定的に評価したい。

保護者の「私は、今年度の学校重点目標を理解している」も「わからない」を含めた否定的回答が5割となり、昨年とほぼ同様の結果となった。重点目標はホームページに掲載されているが、見落とされている可能性がある。あるいは、その年ごとに学校重点目標があるということ自体が一部の保護者に伝わっていない可能性がある。どちらも情報の伝え方の工夫次第で改善が見込まれる項目であるため、次年度の改善事項として引き続き検討願いたい。地域からの指摘は特になかった。

なお、児童、保護者、地域ともに「学び舎」について否定的回答が多かった。松沢小学校は赤松学舎（松沢中学校、松沢小学校、赤堤小学校、区立赤堤保育園）の学校となるが、令和4年度まではコロナ禍のため交流活動を一時休止していた状況がある。

2 総合所見

本年度から、アンケートが従来のアンケート用紙での実施・回収ではなく、二次元コードからオンラインで回答する方式に変わった点を指摘したい（地域はオンラインとアンケート用紙を併用）。そのため、回収率が児童で96%（昨年度）から87%（今年度）へと減少、保護者で85%（昨年度）から71%（今年度）へと減少、地域で66%（昨年度）から50%（今年度）へと減少している。本年度も、学校側からアンケートの周知を繰り返してもらうことで、回収率の大幅な減少には至らずに済んだが、来年度は回収率の回復を願うところである。

令和4年度はコロナ対応をしつつも、ほとんどの行事が対面で行われた。“withコロナ”という新しい状況のなかその都度判断をしつつ各種行事を対面で実施していく年度であり、学校現場でさまざまな配慮がなされたことは想像に難くない。こうしたなか、やはり児童の「学校行事は楽しい（85.5%）」、保護者の「学校行事は、子供にとって楽しい」（95.2%）という結果には注目したい。

また、昨年同様、アンケートの結果は、児童・保護者・地域ともに、全体的にかなりの高評価となった。教職員のみなさまがこのコロナ禍においても質の高い教育活動を行っていることがわかる。評価の低い項目についても、学校の教育活動にとって本質的な問題といえるものではなかった。校長・副校長先生をはじめ、教職員の皆様のご苦労は並大抵なことではなかったと思われる。

本年度の学校関係者評価アンケートでは、児童からも、保護者の方からも、そして地域の方からも、松沢小学校の活動への肯定的な評価と信頼を読み取ることができた。アンケートは人々の思いや考えを集合的に把握する貴重な機会である。回答に快く応じていただいた皆様に感謝するとともに、今後も本委員会によるアンケートが、児童、保護者、地域の皆様、教職員といった異なる立場で学校教育に関わる人々の思いをつなぐ場になればと願う。

世田谷区松沢小学校 学校関係者 評価委員会

委員長 中村英代（日本大学文理学部・社会学科）

委員 石井健夫・新野隆憲・吉見明樹・川村由美・大島友佳子・宮元智美